

令和元年度（2019年度） 現地研修 アンケート

【Q1】 今回の現地研修の内容はどうでしたか？

(1) 興部町の町づくりの取組

- ・住んだ町が故郷となり、その町のまちづくりの中心となつての活動は感心する。当初はよそ者だから、地域のしがらみが少ないので活動しやすかったのか？金は出すけど、口は出さない資金援助者は若者が活動する上では重要。「人と人の交流」が大事なキーワードだと感じた。
- ・活動が9年目を迎え、団体として出来上がっている中で、その中に新たに加入しにくい部分もあると思う。仲良しグループに入っても、すぐに馴染めるとも限らない。友達感覚で誘ってみてはどうか。
- ・続けていくことの楽しさ、難しさを感じた。発表者であるお二人の力強さを学ばせていただいた。
- ・自分の街でも同じような取組をし、同じ悩みを抱えている。道内では、同じような悩みがある地域が多いのだと思った。
- ・おこっぺ街中マルシェは興味深い。町づくり研究会の活動が、これからも長く続いてほしい。とても参考になった。
- ・興部町のような取組がオホーツクの各市町村へ広がり、オホーツクマルシェのようなことができれば良いと思う。おこっぺ街中マルシェのことは知っていたが、詳細は知らなかったもので、今回は良い機会になった。
- ・本州出身や興部町外出身の方がグループにいることは、良いことだと思う。
- ・「継続して取り組むことが、仲間づくりや町づくりに繋がる」という想いで頑張る姿勢が、素晴らしい。
- ・町づくりは行政や商工会、JA、住民の協力が必要。そのパイプ役となれるか、なる人がいるかがポイントだと思う。
- ・地域を知るため、仲間づくりのために始めた活動から始まり、おこっぺ街中マルシェというイベントを開催するようになり、地域の方々にも受入れられるところが素晴らしい。「自分たちが壁を作っているのではないか？」という課題も9年間も続けているから生じることだと思う。
- ・おこっぺ街中マルシェという1,000人も集まるイベントを開催できていることは、地域活性化の取組として大成功だと思う。プラスバンドなど色々来ているようなので、大道芸などをやってみても面白いと思う。
- ・北オホーツク農商工連携人材育成事業という異業種交流会のようなことが契機となり、そこに参加した若者が、おこっぺ町づくり研究会を立ち上げ、おこっぺ街中マルシェというイベントを開催し、興部町の地域活性化に貢献しているというこの取組は、他地域でも通用する成功事例ではないかと思う。来年で10年を迎えるようだが、10年と言わず20年、30年と継続していてもらいたい。
- ・北海道の小規模町村が抱える過疎問題を地域が真剣に語り合い取り組むこととイベントを運営する事への挑戦が素晴らしい。

(2) JA ゆうべつ町女性部マルシェ部会の取組について

- ・牛乳うどんは売れる可能性が大きいと思うが、JA 女性部という枠の中の活動では、今のままでも終わりそうな感じがする。JA を超えた活動が出来れば違う販売戦略が出来そうだが...他でも「牛乳」と「小麦」が特産である市町村はあるので、有名になる前に商標登録した方が良いかもしれない。
- ・牛乳うどんのファンの一人なので、湧別町の新たな特産品として、もっと認知されてほしい。JA 組織との関係もあり大変だと思うが、メディアへ露出することでJAからの見方が変わることもあると思う。今後に期待している。
- ・女性部ならではの発想で地域の資源を活用した食品を作り、実際に販売していることは人並みでは出来ないと感じた。だが、この活動を今後どのような展開にするのか見えず、生産や販売PRなどに大きな課題や障害があるように思えた。
- ・本人は活動が順調にいけないと思っているようだが、説明を受けた感想としては、よくやっていると思った。「継続は力なり」なので、引き続き、牛乳うどんを推進してほしい。
- ・ふるさと納税の返礼品になるなど、ますます牛乳うどんが有名になってほしい。
- ・女性農業者の中から湧き上がってきた想いが形になった例で素晴らしい取組だと思う。これからもっと発信力をつけて頑張してほしい。
- ・牛乳うどんのレシピを名刺サイズで作っていることに感心した。とても見やすい。
- ・同じJA 女性部に所属する者として、久保指導員の悩みはよく分かる。実践を積みながら、湧別町の特産品になるよう頑張してほしい。
- ・悩みがありながらも、マルシェ部会で地道に取り組んでいるので、少しずつでも販売量や知名度が伸びていってほしい。
- ・JA という組織の枠を超えた活動にチャレンジしてほしい。
- ・牛乳うどんが湧別町の特産品としてもっと認知されれば、女性部のマルシェ部会だけでなく女性部全体で試食販売やPRなどの活動ができるようになるのではないか。
- ・地域で力を合わせて6次産業化をやっているのが素晴らしい。また商品開発だけでなく、レシピなど販促品に力を入れているのも良い。
- ・サロマ湖 100km ウルトラマラソンや湧別原野オホーツククロスカントリースキー大会で販売したり、参加賞のような形で提供したりして、知名度を上げていくのはどうか。
- ・JA 女性部の問題は、役員や職員の有志、湧別町役場担当課長などを巻き込んで、解決まで繋げてほしい。牛乳うどんは、ふるさと納税の返礼品や各イベントの参加賞などで知名度向上を目指してみてもどうか。特産品開発は地方自治体の悩みでもあるはずなので、町役場など色々な立場の方から応援してもらえるような体制になれば良いと思う。
- ・女性部が町を引っ張っていく1つの形として、今後の参考になった。

(3) 韃靼そばによる耕作放棄地解消及び6次産業化について

- ・新品种「満点きらり」の誕生と起業のタイミングが成功のポイントだと思うが、前職で得たノウハウを最大限に活かし、補助制度を活用出来たことが事業拡大に繋がっていると思う。
- ・交付金の活用や事業の拡大、有機 JAS 登録に向けた取組など幅広くお話いただき、参考になった。
- ・耕作放棄地を利用し農業所得を得ており、素晴らしいと感じた。補助金ありきとは言えるが、そばを自社での製粉、製造がもっと拡大すれば、取組としてもっと輝くと思った。是非、雄武町で韃靼そばを常に食べられるようにしてほしい。
- ・耕作放棄地の解消に向けた取組が素晴らしい。また、ある程度分業化を進め、それぞれに責任とやりがいを与え、順調な組織運営が出来ていると感じた。
- ・補助制度を活用しようにも、事業によっては手を挙げてもダメな時もある。上手に取り組みされていると感じた。
- ・韃靼そば美味しかった。農業委員会に所属しているので、参考になった。
- ・健康ブームである現代に合う、ルチンをしっかり取れる韃靼そばに着目したことが素晴らしいと思う。
- ・韃靼そばという原料を作るだけでなく、6次産業化して商品まで販売される取組は参考になる。規模の大きさに敬意を表したい。
- ・耕作放棄地解消から6次産業化まで、事業意欲に感銘を受けた。
- ・補助制度を熟知し、上手に活用されている。
- ・韃靼そばと赤クローバーを混植して地力をつけるような栽培方法の工夫から収穫物を使用した6次産業化までしっかり取り組まれており、参考になった。
- ・耕作放棄地の活用や除レキ、暗きょ排水のための補助制度の活用など目の付け所がすごい。6次産業化で作る商品もパッケージなどのこだわりがすごいと思う。
- ・畑に適さないレキ混じりの重粘土地の耕作放棄地を整備して立派な韃靼そば圃場を作り上げ、その韃靼そばを使用して6次産業化に成功したすごい事例だと思う。
- ・元雄武町産業課職員ならではの各補助金、事業制度の活用や韃靼そばを活用して活路を見いだす着眼点、6次産業化へのチャレンジが素晴らしい。日本一の作付面積という優位性を活かし、今後、どのように展開するのか楽しみだ。韃靼そば栽培でも、赤クローバーと混植を行うなどして、有機栽培にチャレンジするなど本当に素晴らしい。
- ・道北のそば作りの北限を越えている中で計画的に挑戦することは、参考になった。

(4) えづらファームにおける農家民宿の取組について

- ・結婚を機に移住、転職とは勇気があるなと思う。第三者農業経営継承制度、新規就農の成功例である。地域の労働力不足を住み込みボランティアで対応するなど工夫が素晴らしい。
- ・江面陽子さんの活動も素晴らしいが、夫婦で同じビジョンを持っていることや、地域の方と共に白滝という地域を守っていこうとする姿勢に感銘を受けた。
- ・説明を聞いて師弟愛を感じた。親方という言葉に、とても感銘を受けた。
- ・民泊の取組や地元の方々との交流など、一からやるには難しいことを色々取り組まれていて素晴らしい。
- ・教育旅行生の受入れを行っているので、今後の方向性の参考にしたい。
- ・農家民宿、農家、子育て、地域活動とすごい仕事量だと思うので、体を大切にしながら頑張ってもらいたい。
- ・江面さんの取組は、とても参考になった。今度は、長時間で掘り下げた話が聞きたい。
- ・地域のためという強い思いが伝わってきた。江面さん一人ではなく、大久保さんもいることが、白滝という地域にとって大きいと思う。
- ・色々失敗もあると仰っていたが、江面さんの活動実績は、地域活動の手本となる素晴らしいものだと思う。
- ・農業体験をしてみたいボランティアの皆さんを受入れて、ボランティアの皆さんのやりたいことを実現している一方で、SEO対策などボランティアの皆さんの個性がえづらファームで活かされていて、「win-win」の関係だと思う。地元の方ともうまくいっているようで素晴らしい。色々チャレンジされる中での苦労話も聞いてみたかった。
- ・北海道に心の豊かさを求めて移住されて、農業に従事している。講演の中で出ていた「新婚旅行10年目」という言葉に感動と感銘を受けた。

(5) 「じゃがリンピック」の取組について

- ・「じゃがリンピック」という名称はインパクトがあり良い。レシピ本の発刊は活動成果が残る上に対価として返ってくるので素晴らしいことだと思う。
- ・「白滝じゃが」というブランド名や「じゃがリンピック」というイベントが新規就農者の大久保さんの活動から広がったことを知り驚いた。機会があれば出場してみたい。
- ・地元の生産物のPR活動としての取組が継続されていることに感銘を受けた。
- ・ブランドである「白滝じゃが」を大切に繋げてもらいたい。
- ・地元のJA女性部で試食会をやっていたが、食べてもらう自信がない、大変だ、負担だという意見が多く中止してしまった。とても残念だったので、他の方法を考えている。
- ・20回目を目指して頑張ってもらいたい。
- ・地元のための活動、自分たちで出来ることから始めること、仲間を増やす方法、色々参考になった。
- ・TV取材を断れるだけの注目があることに驚いた。
- ・長く活動できていることやそこに仲間がいることが素晴らしい。
- ・是非参加してみたいと思う。
- ・「美味しい、簡単、作ってみたい」を評価基準に「じゃがリンピック」という「白滝じゃが」の料理コンテストを開催することに郷土愛を感じる。今後も継続されることを願う。

(6) 白滝ジオパーク見学

- ・白滝にジオパークがあることを知らなかった。子供を連れて「まが玉づくり」に来たい。
- ・白滝産の黒曜石が、当時陸続きだったロシアや海を越えて東北まで渡ったことを知り、歴史をもう一度じっくり勉強したくなった。
- ・白滝から黒曜石が出ることを初めて知った。
- ・白滝の歴史がこんなに深いものだと知らなかった。
- ・何万年も前の人々の暮らしが蘇る感覚になりました。
- ・白滝にジオパークがあることを知らない人も多いと思うので、皆さんに知ってもらいたい。
- ・国内最大級の黒曜石の産地である白滝で、白滝遺跡群の説明を受け、旧石器時代にタイムスリップした気持ちになった。石器作りなども体験する時間があれば良かった。
- ・地域の文化歴史に触れることは素晴らしいことだと思うので、なかなか遠くて行けない白滝ジオパークを見ることでできて良かった。

【Q2】 次回の現地研修では、どのような内容を取り上げてほしいですか？

- ・津別町のまちづくり会社、コワーキングスペース JINBA、山上木工。斜里町のオホーツクハウスを見たい。
- ・現地研修も必要だが、行程や日程を考えると参加者も限られるように思う。出来るだけ多くの指導員が参加できるような場所や日程にしてはどうか。
- ・北海道は広く移動時間も長くなるので、移動時間に地元の指導員さんから地域の歴史や特徴、町の産業などを聞かせていただきたいです。
- ・道南ブロックで、熱心に地域活性化の活動を行っている指導員や活動者の話を聞きたい。

【Q3】 研修事業やふる水事業全体について、ご意見があれば御記入ください。

- ・指導員数は多ければ良いというものではないと思う。
- ・ふる水事業は、地域活動に疲れてしまったり、自信を失いかけていたりしているときに、同じ立場である指導員さんと話をすることで刺激をもらえる良い機会だと思う。ふる水事業としては難しいかもしれないが、指導員さんの参加されているイベントの視察がしてみたい。
- ・平成30年度の地域づくり研究会で講演されていた山崎亮氏のようなクリエイティブな発想を持った方の講演を聞きたい。地域活動の課題解決には新しい考え方や発想が必要だと思うので、クリエイティブな発想が加わることで課題解決や楽しい地域づくりになると思う。
- ・指導員各々の活動報告を聞いて終わりではなく、指導員同士協力して1つのことを成し遂げるような機会があれば、指導員同士の情報交換や交流も増えるように感じる。
- ・今回、講演いただいた江面さんや大久保さんから講演をしていただきたいです。
- ・現地研修に参加できない人のために、地域づくり研修会や指導員会に現地研修の講師をお招きすることも検討してみてはどうか。
- ・研修会を視察や講演だけで終わらせず、地元でどのように活かせるかディスカッションをすることが重要だと思う。
- ・ブロックミーティングについては、隔年の開催でも良いと思う。
- ・振興局単位など地域密着型で情報交換を常日頃から行うことで出る成果もあるのではないかな。